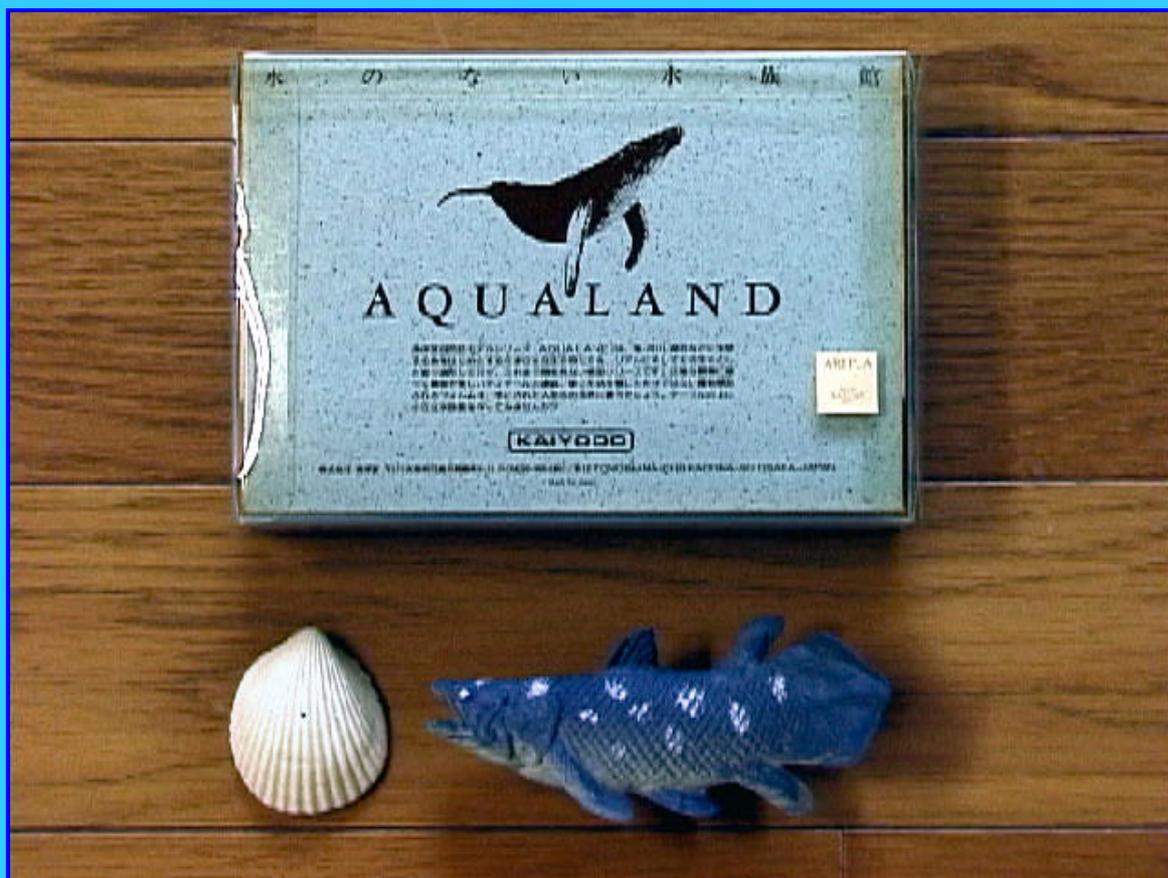


第3回 NON アクアランドシリーズ (海洋堂) の巻



夏らしく涼しげな話題を...と思っていたのですが、もう夏もおしまいですね (泣) 昨今「チョコQ」等でオマケとは思えない壮絶な立体物を立て続けに世に送り出している海洋堂のルーツの一端を垣間見てみましょう。海洋堂の自社開発ガレージキットには、古くは怪獣・怪人からアニメ等のキャラクターを経てアクションフィギュアに至る良く知られた流れと、恐竜作品から続く生物の忠実な立体化の流れがあります。アクアランドシリーズも最初は恐竜に準じた巨大かつ精密なレジンキット(第1世代と呼称)でしたが、より広く普及させる為に安価なソフトビニールキットになり(第2世代)、今回紹介しているシリーズでは価格を抑えた上で塗装済の状態(第3世代)で販売されました。

シリーズ共通のフォーマットとして、レジンキャスト製の一体成型でボックススケール(もっとも、生き物なので生涯のどこかの段階で1/1スケールになる筈)、貝殻を模した飾り台とディスプレイ用の金属線(紛失したかも...)1本が付属します。主としてエアブラシによる塗装が施されています(上の写真は魚体が色鮮やかですが、肉眼で見ると下の写真に近い色です)。価格は多くのものが980円に抑えられており、レジンキットを作らない人も気軽にコレクションできました。私もダイバーの方にこのシリーズのマンタをプレゼントしたことが有ります。



さて左は、近年の海洋堂製オマケ(ボトルキャップ、材質はPVCか)とアクアランドとの同一魚種による比較です。造形に関してはサイズも材料も異なるので単純には比較できませんが、個人的にはアクアランドの猛々しい作りが好みです。むしろ注目すべきは塗装で、オマケの方はサイズがおよそ半分でありながら白っぽい斑点が大変細かく塗り分けられるなど、大変手間が掛かっています。大陸の職人さん達が塗っているらしいのですが、この塗装は逆立ちしても真似できません。もっとも、忠実

キットデータ	
メーカー	海洋堂
スケール	NON
材質	レジンキャスト
当時価格	980円 (税抜)

再現というよりはより精緻さを感じさせるような仕上げという印象を受けました。
ところで何故に今回の題材がシーラカンスなのかといえば...好きなんですよ。学生時代、遊泳中のビデオが見られるという水族館に行って半日程ずっと見ていたことも有る位で(爆)